

科目名 Subject Name		開講年次	開講学期	曜日・時限
障害児指導法演習 I Method of Teaching Children with Disabilities I		2年	前期	月曜日・3時限
単位数	授業の形態		授業の性格	
1単位	演習	選択 (保育士養成課程選択必修)		
当該科目の理解を促すために受講することが望まれる科目				
障害児保育 I・II				
同時に履修しておくことが望まれる科目				
障害児理解演習 I				
担当者に関する情報				
氏名	研究室の場所	オフィスアワー	電話番号・メールアドレス	
小竹利夫	講義棟 2階	月・火・水・木の8時~18時	授業中に指示します	
授業の概要				
子どもや障害者の気持ちを理解した上で、子どもや障害者がより良い生活を送れるように保育や支援の仕方を具体的に学ぶ。また、おもちゃや教材を手作りする。				
授業の到達目標				
①人の行動の奥にある気持ちを見ることの大切さを理解できるようにする。 ②子どもの目線に立つことの意味を理解し、子ども一人ひとりに合わせた保育をできるようにする。 ③様々な障害者に対して、気持ちに寄り添った支援をできるようにする。 ④おもちゃや教材の意味を理解し、自ら製作できるようにする。				
授業の方法				
文字資料やVTRを使って事例を紹介し、具体的に進める。毎回、小レポート提出。また、おもちゃや教材を手作りする。				
学習の成果				
①人の行動を通して、その意味や気持ちを理解することができる。 ②子ども一人ひとりの目線に立った保育をすることができる。 ③様々な障害者に対して、気持ちに寄り添った支援をすることができる。 ④子どもや障害者の発達を促すおもちゃや教材を製作することができる。				
授業のスケジュールと内容				
第1回目	ガイダンス。(授業の内容・進め方・評価の仕方)			
第2回目	乳幼児の言葉の発達(誕生から1歳)。子どもがコトバを獲得していく映像を通して、様々なコトバの育ちを学ぶ。			
第3回目	乳幼児の言葉の発達(1歳から3歳)。子どもがコトバを獲得していく映像を通して、言葉を話す条件を学ぶ。			
第4回目	手作りおもちゃや教材を紹介し、子どもにとっておもちゃや教材の意味を学ぶ。			
第5回目	おもちゃ・教材作り①。(からくりボックス)			
第6回目	障害児に対する援助の仕方を学ぶ。(行動の意味を理解する)			

第7回目	障害児に対する援助の仕方を学ぶ。(真似る・共感する)		
第8回目	おもちゃ・教材作り②。(はめいたパズル)		
第9回目	障害児・者に対する援助の仕方を学ぶ。(様々なコトバによるコミュニケーション)		
第10回目	障害児・者に対する援助の仕方を学ぶ。(こだわりへの対応・気持ちのコントロール)		
第11回目	幼稚園での教育実習での気付きや学びを省察する。		
第12回目	保育園での保育士の対応から言葉の掛け方や接し方を学ぶ。		
第13回目	保育園での実習生の対応から言葉の掛け方や接し方を学ぶ。		
第14回目	障害者施設での実習生の対応から接し方を学ぶ。		
第15回目	まとめ。		
成績評価の方法と基準			
	評価の領域	割合	評価の基準
授業参加態度		50%	授業を集中して聞き、質問に対して積極的に答える。おもちゃや教材作製に熱心に取り組む。
レポート		50%	毎回授業の課題に沿って小レポートを提出する。授業の内容を理解した上で、自分の考えを展開することが求められる。
調査報告書			
小テスト			
中間・学期末試験			
発表内容(態度含む)			
その他			
教科書と参考図書			
教科書:「心の触れ合いを求めて」(小竹利夫)。 参考資料:実習エピソード集「心の触れ合いを求めて」(2008)(2009)(2010)(2011)(2012)。「実習での心の育ちあい」(小竹利夫)。その他、適宜資料を配布。			
履修上の心得・ルール			
私語禁止。飲食禁止。			